

140周年記念事業の実施に向けて、地域・PTA・学校が協力した第1回実行委員会が行われました。区長会、星と稲の会、PTA役員を中心とした実行委員会組織が承認され、事業内容が決まりました。今後は、いろいろな面で地域保護者の皆様からご協力いただくこととなりますが、よろしく願いいたします。

記念事業の中に、「校歌記念碑建立」があります。昨年度の「星と稲」NO7でも紹介しましたが、伊米ヶ崎小学校の校歌は、全国に誇れる校歌です。今回は、校歌について紹介します。

<140周年 記念事業>

- ・ 記念式典、記念祝賀会の実施
- ・ 校歌記念碑建立
- ・ PTA「朝霧」特集号発行
- ・ 記念ビデオ作製、配布
- ・ 学校へ記念品贈呈

北原白秋と幻の校歌

「校歌の風景 —中越地区小中校歌論考—」折原明彦（野島出版）

北原白秋作詞、山田耕筰作曲と聞くと、だれもが一樣に「ほう！」と感嘆の声をもらす。このコンビによる校歌はもちろんのこと、北原白秋の作詞した校歌や山田耕筰が作曲した校歌は、地区内の他校では見ることができない。

このゴールデン・コンビによる作品が、伊米ヶ崎小の校歌である。昭和6年に制定されたこの校歌は、戦前には一度もうたわれたことがなかった。「幻の校歌」といわれるゆえんである。「歌詞の一部訂正を条件として認可する」という文部省からの通知に対し、白秋ががんとして訂正に応じなかったためであるといわれる。いかにも自由人・北原白秋らしいエピソードをもった、いわくつきの校歌であった。（中略）

同校が文部大臣鳩山一郎宛に、出来上がったばかりの校歌の認可申請書を出したのは、昭和6年12月15日のことであった。申請書には、伊米ヶ崎村地図・写真絵葉書・風景写生画・校訓・校旗写真・教育方針などの資料が添付されたという。この添付書類を見ただけでも、先に触れた「学務部長通牒」と考え合わせるとき、日本一の校歌を作ろうという関校長の、校歌制定にかけた意気込みが感じられるのである。（中略）

校歌作成前後の事情に詳しい山田猛夫氏は、さらにPTAだよりの中で「校歌『星と稲』の由来」と題し、次のように語っている。

「こうして申請されたものに対して文部大臣から、歌詞中の「母校」が小学校唱歌に適当でないといわれ、作詞者に歌詞の変更を依頼したが、白秋先生は、「母なる大地」「母なる川」とかあり、小学校でも「母校」でさしつかえなしとの返答で歌詞の変更は結局されず、文部省の認可も得られず幻の校歌となり、戦後まで校歌として歌われなかったが、昭和22年義務教育が9年のいわゆる六三制となって間もなく、学校の記念事業等を節目に歌われ始めたのではないかとされている。」（後略）